

群馬県国際理解教育研究会

だより

群馬県国際理解教育研究会

発行責任者 会長 天川 博

平成27年度 第37回派遣教員実践発表会 (H24~26年度派遣)

(1)野口 剛教諭(前シンガポール日本人学校中学部、現安中市立第1中学校教諭、本研究会出版部)



シンガポール日本人学校中学部

(1)3年間の校務分掌

1年目:3年担任・総合担当、2年目:3年担任・総合担当、
数学主任、3年目:1年担任・研修主任

(2)教育活動

①英語教育重視:習熟度別少人数指導、イメージ教育(実
技教科)、EX授業、TOEIC Bridge Testの実施②国際理解教育・現地理理解教育:シンガポール発見(歴史・地
理・文化・経済・暮らしなどについて)

(3)学校行事

①体育大会、総合考査I(定期テスト、年4回)(6月)、日本人
墓地公園清掃(7月)、合唱コンクール(9月)、写生大会(10月)
野外活動(1年:マレーシア)、シンガポール国内私立高校入試(11/12

月)、百人一首大会・現地理理解教育(1月)、EXの授業、3年生を送る会・卒業遠足(3月)

(4)シンガポールでの生活 ①気候、住宅、自然公園、F1シンガポールGP、お祭り、チャイニーズイヤー(旧正月)

(5)派遣(研修)を終えて学んだこと、感じたこと

①日本文化のよさ ②教科指導の難しさ、楽しさ ③人間力 ④すべての人に感謝

(2)阿部 恵一教諭(前ニュージャージー日本人学校、現前橋市立敷島小学校教諭、本研究会HP担当)



ニュージャージー日本人学校(アメリカ合衆国)

(1)学校について

①ニューヨーク周辺には約9万人の日本人、USAの日本人学校

②校舎:教会の一部借用、児童生徒数:52名、派遣教員11名

③学校教育目標、授業日数200日、週31コマ、自学時間の設定

④3年間の主な分掌:1年目:6年担任・中1数学・学習進路
部長、2年目:6年担任・中1理科・教務主任、3年目:4
年担任・中1理科・教務主任・初等部部长⑤学習進路部長:多岐にわたる進学指導(国公立・私立校・イ
ンターナショナル・現地校等)⑥教務主任:教育課程・行事予定・週時程・初等部・中等部
各分掌

⑦校外学習:社会科見学(国連・警察・消防等)、⑧現地校との交流(近隣公立校との交流:招待・訪問年2回)

⑨プリンストン日本語学校(補習校)での国数の師範授業

(2)生活について:アメリカ合衆国での身分(パスポートは赤色)生活環境、治安、文化、日本食

(3)3年間を振り返って:①多様な価値観 ②日本人として ③動くことの大切さ ④バランス感覚 ⑤感謝

(3)高地 朋見教諭(前パリ日本人学校、現下仁田町立下仁田小学校教諭、本研究会出版部)



パリ日本人学校(フランス)

(1)3年間の校務分掌:1年目:中2担任・中学部社会・特別支援教
育コーディネーター・図書館教育・行事担当、2年目:小5担任
中学部社会・特別支援教育コーディネーター・図書館教育、3年
目:小2担任・特別支援教育コーディネーター・図書館教育・研
修主任

(2)授業活動・学校行事・現地校交流・現地理理解教育

①校外学習(町探検・秋探し等)

②学校行事(小学部:遠足・5~6年体験学習・運動会・学習発表会
中学部:スキー教室・職場体験学習)

③現地校交流(現地の小学校、高校)、現地理理解教育

(3)フランスでの生活について

(4) 研修を終えて

①自分の持ち味を生かした指導 ②フランス文化を学ぶ姿勢 ③研修経験を今後の教員生活に生かす



《シニア派遣について》のQ & A

Q: シニア派遣は補習校だけか?

A: いいえ。日本人学校もあります。日本人学校の方が比較的多いです。選択はできません。

Q: 派遣期間はどのくらいか?

A: 2年間で原則です。アメリカは3年目から課税されるとの話を聞いています。

Q: シニア派遣は単身でも行けるのか?

A: はい。単身でもOKです。

Q: シニア派遣は体力的にも精神的にもハードだと思うが、何か注意していた点があるか。

A: はい。日頃の運動を心がけていました。ケンタッキーやテネシー補習校の校長仲間と会い、いろいろと語らうことによって精神的に楽になりました。余談として、事務長との摩擦があり、大変なストレスでした。1年目でやめて帰国しようと思い、運営委員会に相談したところ、気をまわしていただき摩擦が少なくなり、2年間職務を全うできた。

Q: 経済面での待遇を教えてください。

A: 手当がありました。家賃の9割は補助ができました。夫婦二人で十分な生活ができました。帰国後の年金にも不利はないようです。

Q: 日本の家や家族はどうしましたか。

A: 娘がいるので娘が暮らしていました。光熱費は私が出していました。帰国は自由でしたので、家族とのコミュニケーションも取りやすかったと思います。

【懇親会の様子：群馬県生涯学習センター南にある「うたや」にて】



17:30から県生涯学習センター南にある「うたや」(居酒屋/和風)で役員の皆様方で懇親会を行いました。この会に初めて瀬戸先生(前橋・桂萱東小)と井上先生(吉岡中)が、研修会の後参加くださいました。海外子女教育に興味があるということで、さらに詳しい海外での勤務や生活について知りたいということでした。

役員でも遠方から参加してくださった先生方は、ノンアルコールビールを頭の中では本物のビールとしっかり思い込みながら飲み、久しぶりに海外での生活の様子を話して盛り上がっていました。

役員といっても、ふだんの学校勤務では、共通の海外経験を持たない先生方との勤務ですので、海外の持ち出しづらい(話題にしづらい)環境にあります。従って、1年、2年と経つにつれて海外の記憶や貴重な経験が徐々に薄れていってしまうのが現実です。

本研究会は、こうしたボランティア精神を持ちながら、群馬県国際理解教育研究会の活動や役割を理解し、事業を支えてくださる役員の方々で成り立っています。こうした役員の方々との飲み会は会話が弾み、実に楽しいものです。この時の空間は、非日常的です。

現在、不登校や中一ギャップから小中連携がクローズアップされています。すでに海外の日本人学校・日本語補習校を経験した先生方は、具体的な連携に方法を知っています。こうした先生方の有効活用こそ、これからの学校教育に必要なと考えますので、本研究会としても、各勤務校に働きかけていきたいと考えています。